

独立行政法人国立病院機構
沖縄病院 広報誌

発行日
平成24年5月27日
第26号
発行所
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20-14
編集発行 広報委員会



基本理念

患者さまの立場を尊重し高度で良質の医療を提供します。



残波岬灯台：当院から北に約22.5 km。読谷村の残波岬先端に立つ、白亜の大型灯台。周辺は、沖縄海岸国定公園に指定され、30mもの断崖絶壁が約2kmも続く、雄大な景観が広がっている

運営方針

- ① 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
- ② 患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
- ③ 健全な経営基盤の確立
- ④ 安心して療養に専念できる快適な環境
- ⑤ 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実



表紙の花： 向日葵：学名：Helianthus annuus L、キク科の一年草。原産地は北アメリカ。高さ3m位まで生れ、夏にかなり大きな黄色の花を咲かせる。和名の由来は、太陽の動きにつれてその方向を追うように花が回るといわれたことから。ただしこの動きは生長に伴うものであるため、実際に太陽を追って動くのは生長が盛んな若い時期だけ。

目次

国立病院機構沖縄病院の現状と課題	2
◎就任のご挨拶及び新年度の抱負	
○副院長・事務部長	3
○看護部長・企画課長・管理課長	4
○経営企画室長・放射線技師長・研究検査課	5
○副看護部長	6
新戦力紹介	6
職員表彰	9
医師診療分野一覧	10
外来診療科担当医表	11
医事統計・編集後記	12

ロゴマークの意味



南国沖縄のイメージを表現する為に、原色（はっきりとした色）を基調とし、ベースは沖縄 okinawa の“O（オー）”を表しています。肉太い赤で太陽を表現。中は波をブルーで表し、全体として健康を象徴する人間の笑顔をかたち取っています。



国立病院機構沖縄病院の現状と課題 (暗いと不平を言うよりも、進んで灯りをつけよう)

院長 石川 清司

【沖縄病院の歴史と問題点】

戦後の混乱期、米軍の占領下に当院は結核療養所として誕生。金武保養院を受け継ぐ形で現在の宜野湾市へ移転、一般診療および筋ジス診療が加わった。その後の歴史は、減少する結核にいかに対応してきたかが当院の歴史となる。結核病床を一般病床へ転換(北3病棟)、神経難病病床へ種別変更(北2病棟)、緩和ケア病床へ種別変更(北4病棟：一般病床より20床分離)、北5病棟を閉鎖し、結核から肺がん診療への転換を図った。

問題点：結核病院のイメージの払拭に時間を費やし、乳がん診療等の新たな診療分野の開拓に遅れをとった。先行投資の概念が欠如し、医療機器整備に問題を残した。

【医師の人事】

琉球大学および鹿児島大学医学部との連携で人事が維持されてきたが、医師の卒後初期臨床研修制度導入に伴い大学の牙城が崩壊し、相対的医師不足の時代を迎えた。

問題点：大学との連携を維持しつつ、機構全体との連携での医師確保対策が必要。

【地理的環境】

当院は、沖縄本島中部診療圏(南部診療圏に近接)に位置し、医療激戦区のまっただ中にある。

問題点：林立する総合病院と共存するために、個性のある診療内容、質の高い診療内容、共同利用の可能な機器整備が必要。

【今後の課題】

- 1、政策医療堅持：結核、筋ジス、神経難病診療は堅持する。沖縄県難病拠点施設としての位置付けを確立する。
- 2、肺がん以外の「がん」の診療分野の開拓：準がん診療拠点病院をめざし、放射線診療、治療部門の強化。消化器がん症例を確保し、総合内科として位置づける。
- 3、医師確保：医局員20人規模で1人診療科は基盤が脆弱であり、25-30人規模を目指し、1人診療科の解消(消化器・整形外科・放射線科)を図る。麻酔科医師確保し外科手術、緩和医療におけるペインクリニック分野を開拓する。
- 4、診療の質の確保：がん専門病棟の平均在院日数を短縮し7：1看護、DPC導入。神経・筋病床の安定した病床管理を図り、西1、西2を特殊疾患病棟から障害者病棟へ転換し7：1看護へ。
- 5、緩和医療の展開：緩和における心療内科分野への展開。
- 6、粒子線治療施設との連携：治療ルートの確立と全国国立病院機構病院の粒子線治療受け入れ窓口として位置づけ。
- 7、筋ジス病棟建替え、本館建替えを計画。
- 8、ISO推進、5S徹底：職員の意識改革の手段とし安全文化を確立。公務員意識から脱却し、帰属意識の養成(自分たちの病院づくりへの参画)
- 9、臨床研究の活性化：高度で良質の医療の提供(診療の質と接遇)
- 10、達成感のもてる職場づくり



就任のご挨拶

国立病院機構沖縄病院 副院長
川 畑 勉

春暖の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私儀、このたび久場睦夫先生の定年退職に伴いまして、本年4月1日に後任の副院長という大役を拝命いたしました。身に余る光栄とその職責の重さをひしひしと感じているこの頃です。

久場睦夫先生は、類まれなリーダーシップを発揮なされ、当院の「呼吸器」「神経難病」「癌」の診療部門、とりわけ呼吸器の診療・研究部門の発展に多大なる功績を残されました。そのような偉大な先生の足元にも遠く及ばない私は、久場先生の域に少しでも近づくことができるように日々努力し、今はただ、石川院長と久場前副院長の直接のご指導を仰ぎながら、一生懸命頑張るしかない心境です。

石川院長、久場前副院長のお二人とも診療

の原点は、当院の理念でもある「患者様の立場に立った視点で対応していく姿勢」にあります。この姿勢こそ患者様からの『信頼』につながっていると思います。また患者様を紹介していただいた医療機関の先生方には迅速かつ丁寧な報告で応えることで病診連携をさらに深めていきたいと思っています。そこからまた『信頼』も生まれ、その延長上に良質の医療サービス・経営基盤の安定・質の高い臨床研究が見えてくると思います。私もそのような姿勢で日々の臨床に向き合う所存で、石川院長をお支えし、政策医療の堅持と臨床研究の推進に邁進するつもりです。

4月はまた、人事異動の季節でもあります。医局にも新しい先生方が赴任して参りました。すべての医師が心新たに当院の理念を実践し、すべての患者様と医療機関からの『信頼』に繋げたいと思っています。今後とも相も変らぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



就任のご挨拶

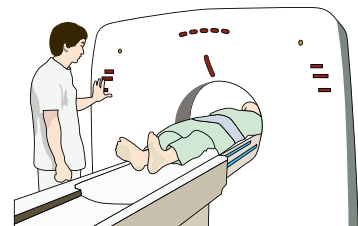
事務部長
野 口 詠 児

平成24年4月1日付で熊本南病院からの昇任で事務部長として着任致しました野口と申します。病院事務職として今年で32年(施設数としては10ヶ所目)を数えますが、沖縄での勤務は初めてとなります。久しぶりの単身赴任への若干のもどかしさを感じつつも、当院での新しい職務への大きな期待を抱きながら新生活がスタートしました。今までの経験を活かし、沖縄病院をより良い病院にするために今回私が配置されたものと自負しております。微力ながら、当院の発展に繋がることを着実に実践していく所存ですので、どうかご指導・ご協力の程よろしくお願い致します。

さて、平成23年度は電カルの導入という病院にとっての一大プロジェクトに取り組み、誠にお疲れさまでした。一方、患者数の減が長期化したことが主要因で近年にない経営不振に

陥り、平成23年度決算で経常収支100%未満となったことから、平成24年度からの「機構病院リスタートプラン」における要改善病院の指定を受けることとなりました。

その中で、当院にとって明るい話題も数多くあります。医療機器整備においては、大型医療機器のMRI(1.5テスラ)及びCT(64列)が年度内に更新されます。また施設整備においては、筋ジス病棟・保育所の建て替えが決定しております。このように、平成24年度は当院の将来的発展に向かってのまさに「リスタート」元年に位置づけられる年でもあります。解決すべき諸課題も種々あると思いますが、職員一丸となり知恵と汗を出し合っこの難局を乗り切りましょう。





選ばれる病院づくり

看護部長
金城 秀子

新緑の季節を迎える時期に当院にも23名の新採用の看護師が就職しました。

既卒者と新卒者の就職の目的は、異なりますが当院を選んで頂いたことに感謝します。当院の新採用者の大半は、既卒者です。現在の看護師のキャリアパスにおいては、入職から退職まで一施設で完結することは少なく、「自分が修得したい看護が、沖縄病院にあるのでは?」とイメージして入ってくるが多くなりました。

4月は、新採用者を迎え1年の中で最も変化のある月であるとともに、在職者にとっては、新人だった頃の自分を思い出させてくれる月でもあります。

当院の専門分野であるがん看護、筋ジスを含む神経・筋難病疾患看護のすばらしさを実感して働ける環境づくりをすることによって、自分の目指す看護が沖縄病院にありそうだとイメージできる病院にしていきます。



新年度と新体制

企画課長
白石 順一

今まで新年度といえばヤマトンチュの私は桜をイメージしていましたが、沖縄では県花でもある「デイゴ」が思い浮かびます。花言葉はその容姿のように「和」、「夢」、「活力」ですが、隣の琉球大学で学生さんが配っている合格電報の文面は「デイゴ咲く」だそうです。

当院の新年度4月の人事異動では多くの職員異動があり、既に新しい力強い風が数多く吹き込んで来ています。

そして今年度は大きな整備計画として、院内保育所建設、CT・MRIの更新、筋ジス病棟



(将来の神経・難病センター)等建て替え整備、5階病棟改修(機能訓練室)等がスタートしますので、新・旧一丸となって当院の基本理念・運営方針に関するレベルの向上と、リスタートプラン施設の脱却に向けて、皆様方と共に「沖縄病院にデイゴ咲く」としていきたい。



就任のご挨拶

管理課長
伊藤 淳司

管理課長の伊藤です。経営企画室長として3年間勤めてきましたが、このたび管理課の勤務となりました。管理課勤務は初めてです。仕事の中での今年度の抱負としては、何か一つ今まで病院が取り組んでいなかったことを取り組み、自分自身と回りを巻き込んだイノベーションを図りたいと考えています。

個人的な目標は、土曜日は沖縄を歩いて回り、日曜日は読書に勤しみたい、と考えていま

す。そして、沖縄の美味しいものを少し(たくさん食べるとすぐに脂肪がつくので)食べ歩きたい、と計画しています。それから、映画も大好きですので、時間を見つけては映画館に通いたい、と考えています。

これまで以上にみなさんとコミュニケーションを取りながら病院を良い方向に変えていきたい、と考えていますのでよろしくお願ひ致します。





就任のご挨拶

経営企画室長
池田 克己

はじめまして、4月より経営企画室長として赴任しました池田と申します。前任地は指宿病院で、九州管内国立病院機構唯一赤字病院という所におりました。しかしながら、病院一丸となって努力した結果今年度は赤字が解消されるまでに経営が安定してきております。平成23年度は、当院も残念ながら収支が赤字ということで今年度よりリスタートプランの対象病院となります。このまま収支が悪いと、今まで以上に物が

買えない、設備投資ができない等でモチベーションが下がります。そして、それにも加え一番口惜しいのは物が言えない事です。何をしても、赤字病院だからと制限されます。

ただ、発想の転換で今回赤字となったことをチャンスだと思い取り組めば道は自ずと開かれます。逆に今まで通りだと、悪循環が悪循環を呼び、立て直すのに将来多大なエネルギーを使わなければならなくなります。この病院の経営が安定するよう、今まで培った経験を十二分に出して頑張りたいと思いますのでよろしくお願いたします。



平成24年度放射線科の抱負

診療放射線技師長
池田 純信

新緑の薫る平成24年度が始まりました。私たち放射線科も萌えるように成長していかなければなりません。

そこで放射線科のテーマは「変革の年」です。今年度の計画としてCT装置、MRI装置の更新が決定しています。

CT装置は沖縄県の肺がん拠点病院として、高度の診断能向上をめざして整備されることになりました。安全で正確な検査が出来るような装置の導入を考えています。これにより、琉球大学や他の病院・診療所との連携体制が図られるようにな

ります。早期発見、早期治療に貢献できるよう放射線科として常に技術の向上に努めていきたいと思っております。

MRI装置の更新は沖縄病院にとって念願でした。神経内科や整形外科などで高度で専門的な治療を行う上で、きめの細かい検査が求められています。

新MRI導入により、患者様に高度でより良い医療の提供に努めていきたいと思っております。沖縄病院だけでなく、他の医院・病院の先生方も検査依頼を行ってもらえるように連携を計画しています。

機器の更新に伴い私たち放射線技師も常に向上心をもって、日々の勤務に望みたいと考えています。皆様のご指導ご声援をお願いいたします。



研究検査科がめざすもの

研究検査科
岸本 明久

去った2月の院内会議にて、院長より「次代に引き継ぐ新病院建設に向けて」の話がありました。そこで研究検査科が「次代に引き継ぐものは何か」を自分なりに考えてみました。

検査科の平成24年度職場目標は、①「報告・連絡・相談」の徹底、②ICT・NST等だけでなく患者への検査情報の発信、③電子カルテ・検体検査システムの問題点抽出と改善、④各種研修会・学会への参加と学会発表を目指すとなりました。

また、4月から診療報酬制度が変更になりました。感染防止対策加算Ⅰや輸血管料Ⅱ・呼吸器リハビリテーションにおける血液ガス測定等での経営改善への参画

や、多様化する生理検査に対応するための検査科体制を見直し、技術の習得や新たな検査(血圧脈波測定装置・ABI測定装置)を導入するための準備をしています。そしてクリティカルパスへの積極的参加により、スムーズな検査依頼と検査件数の強制的増加などを目指します。

しかし、検査科の目標は研究検査科だけで、実現できるものではありません。チーム医療の推進と言われて久しいのですが、それほど実感できなかったように思います。上記の目標は検査科だけでは出来ないことを真摯に受けとめ、他部門と連携してこそ生かされる、研究検査科を目指すことが次代に引き継ぐものだと考えます。

そして、すでに一部の病院では実施されている、臨床検査技師が病棟ラウンドして患者の臨床検査データを解析・追加の検査依頼ができるよう、当院検査科スタッフ一人一人が、日々切磋琢磨して将来につなげるよう願っています。



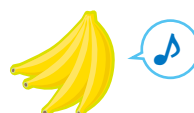
就任のご挨拶

副看護部長
入 末 恵智子

4月1日付けでNHO都城病院から赴任してきました。出身は鹿児島ですが、沖縄県は旅行でもまだ訪れたことがありませんでした。病院の中庭にバナナが生っているのを見た時には「さすが沖縄」と感じました。

こちらに来てからまだ少ししかたっていませんが、スタッフも患者さまも穏やかでやさしい印象を受け、「病む人とその家族の人権を尊重し、信頼される責任ある看護サービスを提供しま

す」という看護部の理念を感じました。病院の中では看護部は所帯も大きく、また看護職は患者さまの一番身近に接する職業です。自分自身、副看護部長としてはまだ始まったばかりで、病院という組織の中で自分がどのような役割を担っていけばよいのか、戸惑うこともあります。看護部長さんの指導の元、看護師1人1人が看護のよろこびを感じられるよう、また患者さまに満足される沖縄病院を一緒に目指していけるよう頑張りたいと思います。



新戦力紹介

新任スタッフのプロフィールです！

①前任施設・出身 ②専門分野(医師) ③趣味・特技 ④ひとこと



外科
伊地 隆晴

- ①県立宮古病院 沖縄県
- ②一般外科
- ④これまで一般外科・消化器外科の分野が多い病院での勤務が殆どで、呼吸器外科を中心とした病院での勤務は初めてです。呼吸器外科は手術や周術期管理・化学療法と、消化器外科とは異なる分野もあり、今は知識の習得と病棟管理に集中しております。私は琉大第二外科医局に所属していて、これまでは呼吸器分野が他の分野と比べて接する機会が少なかったため、呼吸器外科疾患治療の習得に努めたいと思いますので、宜しくお願いします。



呼吸器外科
平良 尚広

- ①沖縄県立北部病院
- ②外科
- ④沖縄県立中部病院で外科研修終了後、県立北部病院で、救急、外傷、一般外科治療に携わっておりました。呼吸器外科は専門性が高い分野であり、興味を抱き今年度より当院でお世話になっております。よろしくお願いたします。



事務部
野口 詠児

- ①熊本南病院 熊本県
- ③ゴルフ、ドライブ
- ④32年目となりますが、初の沖縄勤務です。また、久しぶりの単身赴任で新人のような気持ちです。泡盛も好きですので、どうぞ気軽に声をかけて下さい。



経営企画室
池田 克己

- ①指宿病院 鹿児島県
- ③ドライブ
- ④13年ぶりの沖縄です。当時、琉球病院で勤務しておりました。それから、遡ること20年前、この病院の近くで学生しておりました。とても縁深い沖縄でも、仕事ができる事をうれしく思います。宜しくお願い致します。



管理課
大城 英作

- ①大分医療センター 沖縄県うるま市(旧具志川市)
- ③食べ歩き、人間観察(大げさかな?)
- ④6年ぶりの地元沖縄勤務です。色々な意味で、変わりゆく沖縄に驚きと戸惑い、日々、新鮮な気持ちで勤務する毎日です。一刻でも早く業務に慣れ、沖縄病院の職員として戦力になるよう頑張ります。よろしくお願いたします。



医事部門
有馬 義弘

- ①福岡病院 鹿児島県
- ③ドライブ、野球観戦、山登り
- ④初めての沖縄で、3年ぶりの単身生活になります。着任後、一か月が経とうかとしておりますが、日々とても早く感じられます。リスタートプラン対象施設ということで微力ではありますが貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願致します。

平成23年度

職員表彰

平成23年3月の管理診療会議において、臨床・研究・看護・経営・患者サービス等の部門においての年間の著明な功績と努力を讃え、職員表彰が行われました。



☆名誉院長賞(大城賞)

緩和ケア病棟 奥間 かおり

「緩和ケア認定看護師の認証取得のための努力を讃え、今後の指導者としての役割に期待し表彰する」



☆名誉院長賞(源河賞)

医局 大湾 勤子

「緩和医療、感染症対策をとうして地域医療への貢献を讃え、今後のさらなる飛躍に期待し表彰する」



☆院長賞

診療情報管理室 藤田 香織

「電子カルテの導入に関しての多大な努力と、今後の診療情報管理の充実に期待し表彰する」



☆事務部長賞

地域連携室 中上 穂子

「円滑な地域連携への努力を高く評価するとともに、さらなる連携の基盤づくりに期待し表彰する」



☆看護部長賞

西2病棟 当真 嗣也

「身近な課題を取りあげて改善策を模索し、筋ジス班会議におけるその成果報告と研究姿勢を高く評価し、今後の新たな展開に期待し表彰する」



おめでとうございます



沖縄病院 医師診療分野一覽

役職	氏名	卒業大学・診療研究分野	所属学会等
院長	石川 清司	岡山大学(昭和49年卒) 呼吸器外科・一般外科 肺癌・縦隔腫瘍の診断と治療、肺癌集検の精度管理	日本外科学会・指導医/日本胸部外科学会・指導医/日本呼吸器外科学会・指導医/日本臨床外科学会/日本人間ドック学会/日本内視鏡外科学会/日本呼吸器学会・専門医・指導医/日本呼吸器内視鏡学会・指導医/日本肺癌学会/日本CT検診学会・認定医/日本胸腺研究会/日本医療マネージメント学会・評議員/日本緩和医療学会/日本サイコロジ学会/人間ドック健診情報管理指導士/日本がん治療認定機構暫定教育医/琉球大学医学部臨床教授
副院長	川畑 勉	名古屋大学(昭和59年卒) 日本外科学会・専門医・指導医 呼吸器外科・一般外科・血管外科 肺・縦隔病変の診断と治療、末梢動脈再建後の晩期閉塞に関する研究	日本胸部外科学会・認定医/日本呼吸器外科学会・専門医・指導医・評議員/日本臨床外科学会/日本消化器外科学会・認定医/日本内視鏡外科学会/日本呼吸器内視鏡学会/日本肺癌学会/日本血管外科学会/日本体育協会スポーツ医
統括診療部長	末原 雅人	鹿児島大学(昭和57年卒) 神経内科・神経生理学 神経筋疾患・神経難病の臨床、HTLV-1関連疾患、ミトコンドリア異常症、沖縄県の遺伝性神経筋疾患、ALS患者の長期療養の諸問題	日本神経学会・専門医・評議員 日本神経免疫学会 日本内科学会

外科

外科部長	国吉 眞行	岡山大学(昭和49年卒) 呼吸器外科・循環器外科・麻酔科 肺癌の治療成績向上に関する研究 安全な手術のための器具の開発	日本外科学会/日本胸部外科学会/日本呼吸器外科学会/日本肺癌学会/日本内視鏡外科学会/麻酔科医
外科医長	河崎 英範	琉球大学(平成2年卒) 呼吸器外科・一般外科 肺癌の診断と治療、肺発癌と前癌病変	日本外科学会・専門医・指導医/日本胸部外科学会・認定医/日本呼吸器外科学会・専門医・指導医/日本癌学会/日本呼吸器内視鏡学会/日本肺癌学会/日本臨床外科学会/日本胸腺研究会/International Association for The Study of Lung Cancer (IASLC)
外科医師	伊地 隆晴	琉球大学(平成5年卒) 呼吸器外科・一般外科 肺癌の集学的治療、消化器疾患の診断と治療	日本外科学会・専門医/日本消化器外科学会・認定医/日本消化器外科学会消化器外科治療認定医/日本がん治療認定機構がん治療認定医/日本臨床外科学会
外科医師	久志 一朗	佐賀大学(平成6年卒) 消化器外科・消化器癌の集学的治療	日本外科学会/日本消化器外科学会/日本消化器内視鏡学会/日本癌治療学会
外科医師	饒平名 知史	琉球大学(平成7年卒)、九州大院(平成19年卒) 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科手術の安全性の確立、喫煙と発がん	日本外科学会・専門医/日本胸部外科学会・認定医/日本呼吸器外科学会・専門医・評議員/日本肺癌学会/日本臨床腫瘍学会/日本臨床腫瘍学会暫定指導医/日本癌治療学会/日本がん治療認定機構認定医/琉球医学会/International Association for the study of Lung Cancer (IASLC)/日本がん治療認定機構暫定教育医
外科医師	平良 尚広	順天堂大学(平成17年卒) 一般外科 消化器疾患の診断と治療 呼吸器外科・呼吸器疾患の診断と治療	日本外科学会・認定医/日本胸部外科学会/日本呼吸器外科外科学会/日本救急学会
外科医師	野村 謙 (非常勤)	琉球大学(平成元年卒)、琉球大院(平成7年卒) 国際沖縄愛楽園副園長 消化器外科・乳腺外科・呼吸器外科・超音波診断・内視鏡診断	日本外科学会・専門医/日本胸部外科学会・認定医/日本呼吸器外科学会・専門医/日本消化器外科学会・認定医/日本消化器内視鏡学会/日本乳癌学会・認定医/検診マンモグラフィ読影認定医師

整形外科

整形外科医師	豊原 一作	琉球大学(平成2年卒) 整形外科一般 手の外科、リウマチの外科	日本整形外科学会・専門医/日本リウマチ学会・専門医/日本手の外科学会/日本リウマチ関節外科学会
--------	-------	---------------------------------------	---

呼吸器内科

緩和医療医長	大 湾 勤 子	琉球大学(昭和62年卒)、琉球大院(平成3年卒) 呼吸器内科・緩和医療 呼吸器感染症・びまん性肺疾患の診断と治療	日本内科学会・総合内科専門医/日本呼吸器学会・専門医/日本感染症学会・専門医/日本肺癌学会/日本結核病学会・指導医/日本緩和医療学会暫定指導医/日本がん治療認定機構がん治療認定医/日本医師会認定産業医
内科医長	仲本 敦	琉球大学(平成元年卒)、琉球大院(平成5年卒) 呼吸器内科・呼吸器感染症・肺癌の集学的治療	日本内科学会・認定医/日本呼吸器学会・専門医/日本肺癌学会/日本感染症学会/日本結核病学会・指導医/ICD・認定医
緩和医療科医師	うえ 原 忠 大	琉球大学(平成8年卒) 緩和医療科、癌の集学的治療・緩和医療	日本外科学会・専門医/日本緩和医療学会/日本肺癌学会/日本呼吸器外科学会/日本臨床外科学会
内科医師	藤田 香 織	琉球大学(平成11年卒)、琉球大院(平成16年卒) 呼吸器内科、呼吸器疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本感染症学会/日本呼吸器学会/日本肺癌学会/日本結核病学会・指導医
内科医師	那 覇 ゆい 唯	琉球大学(平成12年卒) 呼吸器内科、呼吸器疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本呼吸器学会・専門医/日本感染症学会・専門医/日本肺癌学会/日本結核病学会/日本呼吸器内視鏡学会
内科医師	原 眞紀子	香川大学(平15年卒) 呼吸器内科、呼吸器疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本結核病学会/日本呼吸器学会/日本肺癌学会/日本呼吸器内視鏡学会/日本緩和医療学会
内科医師	久 場 睦 夫 (非常勤)	山口大学(昭和46年卒) 呼吸器内科 呼吸器疾患の診断と治療、肺癌の化学療法、肺結核症の疫学・病態・治療	日本呼吸器学会・専門医・指導医・評議員/日本肺癌学会・評議員/日本呼吸器内視鏡学会・評議員/日本結核病学会・評議員/日本感染症学会/日本癌治療学会/日本CT検診学会・認定医/日本臨床病理学会/日本臨床細胞診学会/日本内科学会認定医/日本がん治療認定機構がん治療認定医/日本医療マネージメント学会/日本医師会認定産業医/World Association for Bronchology

神経内科

神経内科医長	諏訪園 秀 吾	鹿児島大学(昭和63年卒)、京都大院(平成4年終了) 神経内科、臨床神経生理・事象関連電位	日本内科学会/日本神経学会/Society for Neuroscience/日本ME学会/日本臨床神経生理学会・認定医
神経内科医師	森山 宏 遠	鹿児島大学(平成16年卒) 神経内科、神経・筋疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本神経学会
神経内科医師	藤崎 なつみ	琉球大学(平成21年卒) 神経内科、神経・筋疾患の診断と治療	日本内科学会・認定内科医/日本神経学会

消化器・一般内科

総合診療科医長	樋口 大 介	琉球大学(平成元年卒) 消化器内科、早期胃癌・大腸癌の内視鏡的治療、肝胆膵疾患の診断と治療	日本内科学会・総合内科専門医/日本消化器病学会・専門医
---------	--------	--	-----------------------------

放射線科

放射線科医長	大 城 康 一	琉球大学(平成6年卒) 放射線診断学、呼吸器疾患の画像診断	日本放射線学会・専門医/日本肺癌学会
--------	---------	----------------------------------	--------------------

外来診療科担当医表

診療受付時間

内科: 8時30分～12時まで(但し、再診は14時まで)
 外科: 8時30分～15時まで(初・再診)
 胸部精査: 8時30分～16時30分まで

平成24年4月1日現在

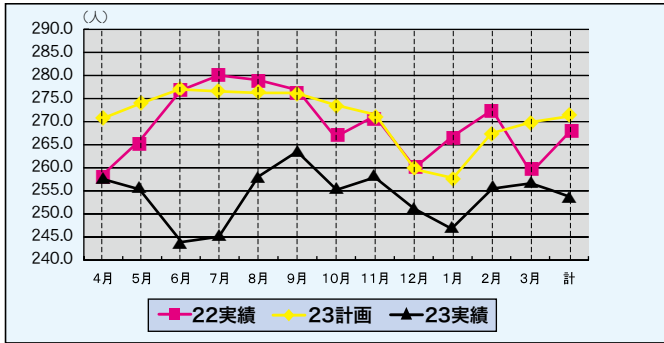
		月	火	水	木	金
呼吸器内科 (紹介状あり)		仲本 敦	那覇 唯	《外科担当》	原 真紀子	【交代制】 1週目 仲本 2週目 大湾 3週目 那覇 4週目 原 5週目 仲本
呼吸器内科 一般内科 禁煙外来 (紹介状なし)		久場 睦夫 原 真紀子	仲本 敦	久場 睦夫 アスベスト外来【毎週】 久場	那覇 唯	久場 睦夫 仲本 敦
緩和医療外来			大湾 勤子	上原 忠大	大湾 勤子	
消化器内科			樋口 大介	樋口 大介	樋口 大介	
神経内科	新患	諏訪園 秀吾	森山 宏遠		末原 雅人 (予約制)	藤崎 なつみ /末原 雅人 (予約制)
	再診 (予約制)	藤崎 なつみ	末原 雅人	末原 雅人	森山 宏遠	諏訪園 秀吾
放射線科		大城 康二	大城 康二	大城 康二	大城 康二	大城 康二
※CT・MRI・RI検査・放射線治療(リニアック)は随時受付【地域医療連携室:内線 235】						
外科 呼吸器外科 血痰外科 肺ドック		河崎 英範 久志 一郎 (消化器)	國吉 真行	石川 清司 饒平名 知史	川畑 勉 久志 一郎 (消化器)	川畑 勉
整形外科		豊原 一作 (午前中)	豊原 一作 (午前中)	豊原 一作 (8:30～11:30)	豊原 一作 (午前中)	豊原 一作 (午前中) (第4週目休診)
専門外来		【乳腺・甲状腺外来】 天願 敬 (予約制) 14:00～17:00	【乳腺外来】 野村 謙 (予約制) 13:00～17:00	【総合相談】 石川 清司 13:00～16:00 【ピロリ菌外来】 樋口 大介 13:00～15:00	【ピロリ菌外来】 樋口 大介 13:00～15:00	

※ご不明な点・予約変更等ありましたら下記へお問い合わせ下さい。お問い合わせ時間は、9:00～17:00までにてお願いします。

独立行政法人国立病院機構 沖縄病院 〒901-2214 沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号
 TEL 098-898-2121(代) FAX 098-897-9838

医事統計

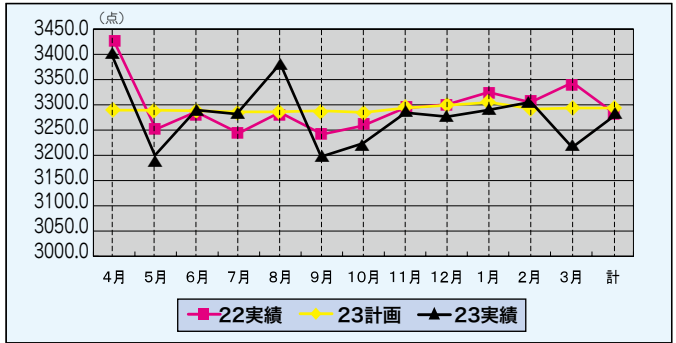
一日平均患者数(入院)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
22実績	259.0	266.6	277.3	280.1	279.2	276.7
23計画	271.0	274.3	277.0	276.3	276.5	276.3
23実績	258.2	255.2	244.3	245.4	257.9	263.8

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22実績	267.4	271.4	259.9	266.6	272.5	259.1	268.1
23計画	274.0	272.0	259.5	257.3	267.9	270.1	271.0
23実績	255.2	258.1	251.4	246.9	255.6	257.2	254.1

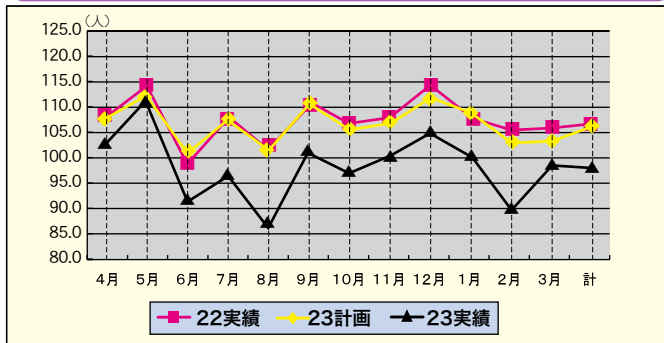
一人一日あたり診療点数(入院)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
22実績	3,436.5	3,246.3	3,286.7	3,239.9	3,284.1	3,238.1
23計画	3,290.7	3,286.2	3,289.6	3,286.1	3,284.2	3,287.7
23実績	3,402.8	3,195.9	3,292.2	3,279.4	3,386.7	3,187.6

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22実績	3,254.5	3,293.0	3,299.9	3,328.6	3,307.7	3,346.3	3,285.2
23計画	3,286.4	3,290.8	3,301.7	3,302.1	3,291.1	3,291.9	3,290.6
23実績	3,217.4	3,284.0	3,275.8	3,291.2	3,302.2	3,208.7	3,276.5

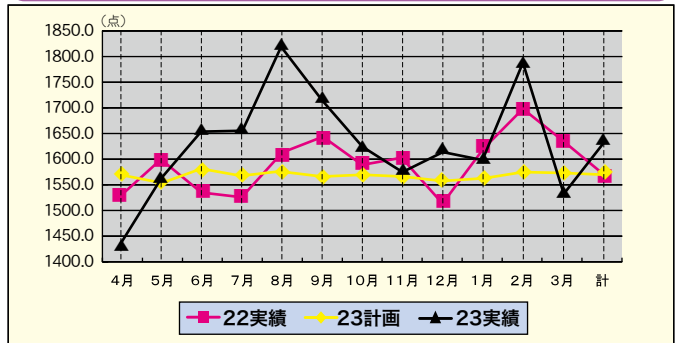
一日平均患者数(外来)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
22実績	108.3	115.2	98.8	108.3	101.7	111.2
23計画	108.1	113.2	101.3	107.9	101.4	111.5
23実績	103.5	112.3	90.9	96.6	85.9	101.1

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22実績	107.5	109.1	115.9	108.8	106.2	106.2	107.9
23計画	106.2	107.9	111.9	109.7	103.7	103.8	107.0
23実績	97.2	100.7	105.6	100.5	89.4	98.8	98.2

一人一日あたり診療点数(外来)



年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
22実績	1,539.2	1,605.7	1,542.4	1,536.6	1,616.2	1,647.2
23計画	1,573.6	1,561.9	1,589.3	1,573.0	1,582.1	1,574.2
23実績	1,443.0	1,570.8	1,656.1	1,660.0	1,820.3	1,720.1

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22実績	1,595.1	1,607.1	1,522.1	1,618.4	1,700.9	1,642.5	1,578.7
23計画	1,575.0	1,572.6	1,565.7	1,570.5	1,581.5	1,582.5	1,575.3
23実績	1,629.5	1,582.2	1,618.2	1,603.3	1,184.6	1,540.9	1,633.7

編集後記

今般、人事異動により広報誌の作成に携わるようになり、慣例にならぬ小職が『編集後記』を担当することになった。

そこで、編集後記について、ネット等で調べて見ると、執筆のポイントに

- ①編集の裏側を記すことで、読者に親近感を持ってもらうことができる
- ②企画のねらい等を読者へ正確に伝えることができる
- ③形式ばらず、素直に執筆することで、共感作用が生まれるとありました。

また、広報誌の中で読者が意外と楽しみにしているものが「編集後記」であると。中には、編集後記から広報誌を読むとい

う方も少なくないようです。

言い換えれば、広報誌の出来具合の良し悪しに大きく影響する記事と言えます。文才のない私には、かなりのプレッシャーであるとともに、正直な気持ち、非常に憂鬱で、気が重いものです。しかし、ここは心機一転、逆転の発想で、「編集後記」を楽しむことをモットーとし、今後の広報活動の励みにしたいものです。

追伸；上述にある執筆のポイントを参考にし、次号以降の記事(編集後記)に活かしたい。と思っている今日この頃である。



編集委員

川畑 勉、伊藤 淳司、入来 恵智子、山下 博史、待鳥 泰浩、八木 茉璃、吉丸 健一、新里 満、安里 英子、島田 明子、金城 富樹、大城 英作